

ひろしま WENET

広島市女性団体連絡会議

広報紙 第32号

2011年11月

目次

・平和の灯のつどい	(報告)1
・日韓フォーラム	(報告)2
・日本母親大会 in 広島	(報告)3
・WENETよりおしらせ	4

ヒロシマ 平和の灯のつどい (報告)

広島市女性団体連絡会議と広島市の共催で、毎年7月31日に平和記念公園で開催する「ヒロシマ平和の灯のつどい」は、13回目となった今年も多くの参加者と気持ちを一つにすることができました。

開会前には、ボランティアガイドさんの案内で「嵐の中の母子像」「原爆犠牲国民学校教師と子どもの碑」などの慰霊碑を巡り、慰霊碑にまつわる話を聞きました。

夕暮れの中、カザフスタンからの留学生と高校生平和ゼミナールのメンバーによって「平和の灯」から採火したともしびを参加者が持つろうそくにともし、原爆による犠牲者の方々、3月11日に起こった東日本大震災で亡くなられた方々の冥福を祈り、黙とうを捧げました。参加者120人はそれぞれの平和への思いを心に受け止めながら、原爆死没者慰霊碑の周りを歩きました。

(報告：学習部会)



日韓フォーラム(報告)

今年も昨年に引き続き、韓国大邱広域市から啓明大学校医科大学名誉教授の申東鶴さんをお迎えし、6月24日、国際会議場において「2011年日韓男女共同参画フォーラム」を開催しました。

午前中の学習では、広島女学院大学教授の篠原收さんが「戦後の日韓関係」と題して、韓国と日本の歴史を年代ごとに順を追って話されました。話はとても分かりやすく、在日本大韓民国婦人会広島県地方本部の方からも、「あらためて歴史を学ぶことができた」という声も聞かれました。



続いて、申東鶴さんが「21世紀変化への女性参画」と題して話されました。21世紀の変化として、各国の出産率の低下や、人口の高齢化、ライフサイクルの変化等について指摘され、女性の社会参加の現状として、公的・教育・医療等の分野への女性の参加割合を、韓国と他の国々との比較を交えながら説明されました。

韓国も日本も、まだまだ女性の社会参加が低いことを、あらためて知る機会となりました。同時にこれまでの歴史を踏まえて、韓国と日本の今後をグローバルな視点で考えていく必要があると感じました。

学習した後、フォークシンガーの山上茂典さんと、ソプラノ歌手の車景實さんの二人によるミニコンサートがありました。ギターと歌声の息のあった共演で、心安らぐひとときでした。特に、このたびの東日本大震災の支援イベントでも歌われた山上さん作詞の「心つなごう」を、山上さんと参加者全員で歌い、会場が一つになって私たちも力を頂きました。今後も支援の輪が広がることを祈っています。

また、午後からの交流会は、レストランに会場を移し、在日本大韓民国婦人会広島県地方本部の6人の皆さんの日ごろの活動等の話を聞きながら、楽しい時間を過ごしました。

今回のフォーラムは、日韓両国の男女共同参画の推進に資する有意義なものでした。これまでの韓国とのつながりを大切にするとともに、これからもお互いの国民が関心を持ち続け、支え合う関係の中で、姉妹都市提携の目的が十分達成されることを期待します。

(報告：「2011年日韓男女共同参画フォーラム」副実行委員長 有地美奈子)



日本母親大会 in 広島 (報告)

7月30日 全体会 31日 分科会

“子どもたちの未来のために” “核兵器のない世界を” “原発のない日本を”

7月30日、31日の2日間、第57回日本母親大会が広島で開催されました。広島県での日本母親大会の開催は初めてです。母親大会は広島・長崎、そしてビキニという3度の被爆から、「核戦争から子どもを守りましょう」という母親・女性たちの願いから始まった運動です。その意味で、広島は母親運動の原点の地です。広島での開催が実現したことを喜び、全国の母親・女性たちは仲間の輪を広げ参加の取り組みを強めてきました。



去る3月11日、凶razも起きた、東日本大震災と福島原発の重大事故。参加を心配していた全国の仲間を激励するかのよう、被災地の岩手から70人余り、宮城からは80人余り、そして福島からは100人の方が、全国の皆さんへの支援のお礼と、被爆地ヒロシマで学んでヒロシマの被爆の実相を伝えようとの思いで参加されました。

全体会は、8,500人の参加で、会場はいっぱいになり、オープニングは広島のうたごえの大合唱、広島劇団「月曜会」による構成詩劇「核と世界の子どもたち」は、広島の私たちの平和を願う取り組みの積み重ねを全国の皆さんに伝えることができました。あらためて母親大会原点の地としての広島の役割を確認しました。

そして、翌日の分科会は「子どもと教育」「暮らし・権利・労働」「男女平等・女性の地位向上」「平和・民主主義」を柱に分科会・シンポジウム・講座、広島特別企画の碑めぐりや、宮島などの見学分科会、合わせて47のテーマで、7,500人が参加しました。

「世界で初めての原発震災」は開会30分前には満席となり、「国連女性差別撤廃委員会勧告の実現を」は、共に活動する仲間としての連帯感にあふれるなど、どの会場も真剣に学び合い語り合う女性のパワー全開でした。



吉永小百合さんが参加した、特別企画「原爆詩の朗読会」では、吉永さんが「日本のような地震の多い国では、原発はなくしてほしい」と話され、共感と感動を呼びました。

今年の大会は未曾有の災害を背景に、全国の仲間がしっかりと手を結び、文字どおり草の根をいっそう広げ、子や孫に核も基地もない、真に平和な未来を手渡すための諸運動に取り組む正念場を迎えていることを問う大会になりました。

「運動して要求し、その要求が実現する」社会に向けて、「人権」「平等」「平和」をキーワードに、広島での大会開催の意義をかみ締め、各分科会で真剣に話し合い、決議や申し合わせを確認し、来年の新潟での再会を約束して、大会を終えました。

(報告：啓発部会 阿部京子)

☆ 平成2011年度 広島市女性団体連絡会議 役員紹介 ☆

5月28日、広島市女性団体連絡会議の総会を開催しました。新たに役員が選出されましたので、紹介します。

役職名	団体名	氏名
会長	広島市地域女性団体連絡協議会	西田 志都枝
副会長	広島市女性教育センター女性団体・グループ連絡会	信政 ちえ子
副会長	広島市公立幼稚園退職園長の会（ももくさ会）	松本 恵和
書記	I女性会議広島支部	貴田 月美
書記	(社)日本助産師会 広島県支部広島助産師会	田中 美佳
会計	安芸コスモスソソクラブ	澤野 道子
会計	広島県生協連合会	正岡 尚子
監事	(財)広島市母子寡婦福祉連合会	進藤 功子
監事	特定非営利活動法人ひろしま女性NPOセンター未来	中嶋 典子
啓発部長	広島県母親連絡会	阿部 京子
学習部長	(財)広島市母子寡婦福祉連合会	柳田 裕美
広報部長	広島市未来を考える女性の会	藤永 雅子

♪ 広島市男女共同参画推進センターがオープンします ♪

「広島市女性教育センター」は現在、大規模改修工事中。2012年4月に、男女共同参画を推進する拠点施設「広島市男女共同参画推進センター」として生まれ変わります。

≪施設概要≫ 中区大手町五丁目6番9号 地上1階～5階

ホール、研修室、会議室、フィットネスルーム、音楽練習室、生活実習室、アトリエ、和室、資料室、フリースペース、こども室 などがあります。(下線は新たに設置する部屋)

≪事業概要≫ 普及啓発、講座、相談、調査・研究、情報の収集・提供、活動・交流の場の提供

センターの愛称を募集しています。名付け親はあなたです!

広島市では、広島市男女共同参画推進センターのイメージを表現した誰もがわかりやすく、親しみやすい愛称を募集しています。

◆応募方法 「広島市男女共同参画推進センター 愛称応募用紙」に必要事項を記入の上、郵便、電子メール、ファクス、持参により男女共同参画課へ提出してください。

◆応募期限 11月30日(水) (消印有効)

●詳しくは、広島市ホームページ(ホーム>市民生活>人権・男女共同参画>男女共同参画>施設ガイド)をご覧ください。

●問い合わせ先 広島市市民局人権啓発部男女共同参画課
電話 082-504-2108 Fax 082-504-2609

♪ 平成23年度広島市男女共同参画標語 入賞作品 ♪

最優秀賞	助けあう 男女のパワーは ∞(無限大)	本吉 正幸	安芸区
優秀賞	性別で あきらめちゃダメだ 君の夢	松山 晃仁	安佐北中学校2年
	男女とも 社会をつくる 主人公	山田 英里奈	基町高等学校1年
	今日はパパ 明日はママが お迎えね	森岡 真菜	安古市高等学校3年

WENET ニュース第32号 2011年11月

発行者 広島市女性団体連絡会議 (広島市市民局人権啓発部男女共同参画課気付)

責任者 西田 志都枝